

「あるデイサービス施設(リハ特化型)における見えにくい高齢利用者に対する環境改善の取り組み過程とその効果、今後の課題についての一考察」

視覚障害リハビリテーション協会

吉野由美子

舟越 智之 通所介護施設(歩行訓練特化型デイサービス)エバーウォーク両国店施設長



目的

- 1 介護保険で運営されているデイサービス施設で利用者の困りごとを聞き取り、環境改善した過程について述べる。
- 2 環境改善の方法について写真等を使って具体的に説明する。
- 3 環境改善は、利用者のみならず、職員の仕事の質向上に役立つことを述べる。



環境改善提案時の利用者の 視機能と体の状態

- 介護認定 要支援2
- 長い距離の移動には電動車椅子
- 2017年7月15日より通所開始(週2回)
- 月1回の整形外科定期受信(痛み止めの処方等を受けるため)
- 4ヶ月に1度の眼科定期受信(網膜と角膜の状態のチェック、目薬の処方など)
- 矯正視力(左0.15 右0.02) 視野障害なし



1日の流れ(2017年7月頃)

- 午前8時半頃自宅に迎えの車
- 午前9時頃施設到着、自分の席に着き血圧体温等チェック
- 9時20分から20分間全員で準備体操、体操後5人一組のグループに分かれて行動
- 20分交代の5つのプログラムを順番にこなして行く。プログラム3つをこなしたところで20分のお茶を飲みながらの休憩、その後2つのプログラムを行う。
- 午前11時40分にプログラム終了、血圧測定の後、送迎車で自宅へ
- 12時少し過ぎに自宅に戻る。



改善前の状態

- その日の運動スケジュールがホワイトボードに細い黒のマジックペンで手書きによって書かれて良い方の眼が0.15の当該利用者は、判読できなかった。
- 当該利用者以外にも掲示が見えにくく迷っている利用者が10人ほどいるようだった。
- サーキットレーニングの種目の順番が、毎回不定期に変わっていた。
- 器具などの置き場所が不定期に変わっていた。等



困りごと(見えないからわからない)

- 通所初期のころ
- 毎回座る位置が変わる。座る場所は小さな手書きの
ネームカードが置いてある(近くに行かないと見えない)
- プログラムの順番が毎回変わるが、その順番が手書きの
小さな名前の下に手書きで書かれていて読めない



- 毎回指導員に「私はどこの席」と聞く
- 「次、私は何をするの」と聞いてから動く
- 視覚情報の提示がロービジョンの私にはわからず
役に立たない



困りごと

(慣れてきた頃、環境が変わる)

- 利用者の入れ替わりなどに合わせたり、新しい機械の導入により、少しずつ物の置き場所が突然変わる。
- 物の置き場所が変わるたびに1から記憶を修正しなければならなかった。
- 変更に気づかず、物につまずいたりする。



- 見えにくくても環境に慣れることができるが、些細でも変化するとまたやり直しになる。



改善方法

- 当該利用者が自分の見え方と、どのような点で困っているのかを具体的に説明
- 職員が当該利用者と意見交換し、困りごとを具体的に把握。
- ユニバーサルデザインの知識を持つ職員も交えて施設内で話し合っ改善を進めた



見えにくさに配慮した環境改善の原則

- ①**明るさ**...天候や時間帯、室内・室外、照明や座席への配慮
まぶしさへの配慮
- ②**コントラスト**...印刷物、住環境(段差、食器と食材・表示)
同コントラストでもまぶしさへ配慮(白黒反転)
- ③**大きさ**...その方に応じた文字の大きさ、文字の太さ、フォント など
- ④**ノイズの除去**...見るもの以外の情報の削除
(見せたい物の背景はスッキリと)



視覚的表示の改善と プログラムの流れの規則性



改善の実例

1日のスケジュールボード

時間	9:40	10:00	10:20	10:40	11:00	11:20
9:40	体操	スクワット	磁気・リフレ	歩行	ブルブルラクナール	自転車
10:00	自転車	体操	スクワット	磁気・リフレ	歩行	ブルブルラクナール
10:20	ブルブルラクナール	自転車	体操	スクワット	磁気・リフレ	歩行
10:40	歩行	ブルブルラクナール	自転車	体操	スクワット	磁気・リフレ
11:00	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
11:20	磁気・リフレ	歩行	ブルブルラクナール	自転車	体操	スクワット
11:40	スクワット	磁気・リフレ	歩行	ブルブルラクナール	自転車	体操

- 名前を太字で印刷
- 運動種目を色分け
- 種目の実施場所を固定し、種目から種目への移動は時計回り、スタートの種目が分かれば良いように工夫
- 作った札を磁石でボードに貼り付ける

私の名前だけを黒字に白で、5Mほど離れていても札の色で判別できる。



6つのプログラムの実施場所を 固定



体操



改善の事例 トイレの表示



- 男性・女性・車いすの表示を大きく
- 空き・使用中の大きな札をかけて、使用中の周りには赤い色を塗る。



改善事例

マシーントレーニングもシンプルに



- ・小さいボタンは不要
- ・みるべき情報だけ強調
- ・安全に配慮
- ・自分の記録が残る



改善後の結果

- 1) ロービジョンがある利用者は、種目の移動時に職員に聞くことなく、スムーズにトレーニングできるようになった。
- 2) 掲示の改善をおこなう前は、10人ぐらいの利用者が種目移動に迷っていたが、3人ぐらいしか迷わなくなった。迷っている3人ぐらいの人は、認知症等の要因があると推測された



指導員の立場から 店舗レイアウトを改善した結果...

利用者が自ら見て移動できるようになった



次の場所へ迷わなくなり、移動がスムーズ



人の流れが均一になり、転倒なども減少



職員の労力を減らし、仕事の質が向上



関心を持ちポイントをつかむと

周辺視野でしか
見ることのできない
利用者。
便器を流すボタンが
判別できなかった。
そこに職員の方の思
いつきで、ピンクの
シールを貼って対応



利用者の困りごとを聞き取って 解決策をひねり出す

- 80歳台の利用者
- 視界が全て霧がかかったようになっていて、自分の座る席がどこだか分からない。赤い色は割に見えやすいという話し
- 対策 白い椅子に赤い布をかけて、この利用者が自分の席を見分けられるようにした実例



結論

- 1) ロービジョンがある利用者は、種目の移動時に職員に聞くことなく、スムーズにトレーニングできるようになった。
- 2) 掲示の改善をおこなう前は、10人ぐらいの利用者が種目移動に迷っていたが、3人ぐらいしか迷わなくなった。迷っている3人ぐらいの人は、認知症等の要因があると推測された
- 3) ロービジョン者への配慮は高齢者にとっても有用ということを確認。



環境改善のポイント

- 利用者の見えにくさについて関心を持つ
- 利用者がどんな見え方で、その見えにくさ故に何に困っているかを聞いたり・観察したりすることから始める
- 困っていることが把握できたら、配慮の原則に従って、できるところから工夫して見る
- 工夫の際、物事を大げさに考えない。
- 工夫がうまく行っているかは、利用者の反応で確認する。



ご静聴ありがとうございました。

